JSP ニュース

2012年 夏

No.72

証券コード：7942

第54期 報告書　平成23年4月1日～平成24年3月31日

代表取締役社長　**塚本　耕三**

JSPニュース　No.72　Contents

社長メッセージ …… 01
特集 …… 03
連結財務ハイライト …… 08
連結セグメント情報 …… 09
要約連結財務諸表 …… 11
JSPカレンダー …… 13
トピックス …… 15
株主優待制度／配当実績 …… 16
会社情報 …… 17
表紙の写真 …… 18

「深化と成長」をビジョンとした、
ー「Deepen & Grow」の達成ー

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

平成24年3月期におけます世界経済は、日本における東日本大震災の影響、欧州における南欧諸国の金融危機、中東・北アフリカ諸国の情勢不安による原油高、円の独歩高といった様々な問題により、不透明、不安定な状況が継続しました。とりわけ、日本では震災、原発事故の影響、円高による輸出不振から景気の落ち込みを余儀なくされました。

発泡プラスチック業界におきましても、震災により需要が減少したことに加え、生産設備の被災、電力制限による生産活動の制限等、深刻な影響を受けました。また、その後のタイの洪水による影響や、原油高による原燃料価格の値上がりにより、厳しい経営環境が続きました。

この様な状況下におきまして、当社グループは、生産設備の被災、電力制限に対し、グループ会社間の協力により生産体制の確保に努めました。また、需要の低迷に対しては、独自技術に基づいた高付加価値製品の販売や、海外での拡販を推進することで収益確保に努めてまいりました。

これらの結果、平成24年3月期の当社グループの売上高は、933億97百万円（前年同期比1.6％増）、営業利益は52億96百万円（同29.9％減）、経常利益は55億36百万円

新連結中期経営計画

（同29.7％減）、当期純利益は31億円（同36.5％減）となりました。

当社グループは、かけがえのない地球環境を守り、生産活動と環境の共生を図り、省資源・省エネルギー循環型社会への適合など多角的観点から環境負荷の低減に傾注していくことが企業としての信頼確保と競争力強化につながるものと考えております。

当社グループは、連結中期経営計画「NEXT JSP」が平成24年3月期に完了することを受け、新たに平成27年3月期を最終年度とする連結中期経営計画を策定いたしました。

本計画は、前中期経営計画の定性的目標の骨子でありました「既存事業の強化」「海外事業の拡充」「新事業の創出」を更に深化させ、当社グループを新たな成長路線に導くという意味を込めて、「深化と成長」をビジョンに掲げ、計画名を「Deepen & Grow」といたしました。

既存事業の強化につきましては、前中期経営計画のコスト削減や、新規グレード開発による新規用途の開拓によりまして、高収益型事業への移行が順調に進んでいますことからこれをさらに促進・加速してまいります。

海外事業の拡充につきましては、前中期経営計画で、生産販売拠点をこれまでの欧州、アメリカ、アジアに加えて、BRICsまで拡大しましたが、本計画では、さらに中国での4極拠点化や、VISTA（ベトナム、インドネシア、南アフリカ、トルコ、アルゼンチン）への事業拡大も視野に入れまして、更に加速させると共に、既に進出した各拠点の安定拡充化と拠点間の連携による技術レベルの向上や、市場拡大を目指してまいります。

新事業の創出につきましては、前中期経営計画でも注力したところでありますが、本計画の最大テーマとして位置づけております。当社グループが持続的な成長を続けるためには、付加価値の高い独自製品をいかに多く創出していくかが、本計画の鍵であると考えております。

なお、定量的な目標につきましては、本計画の最終年度である平成27年3月期の連結売上高1,100億円の達成と営業利益率8％の確保といたしました。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年6月

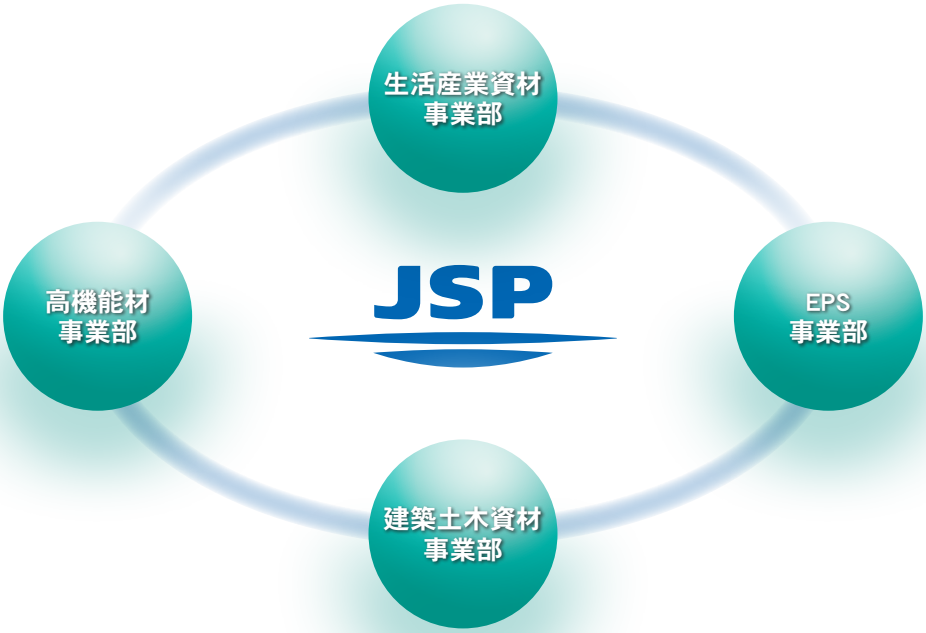
塚本耕三

全　事　業　の　紹　介

平成24年、JSPは創立50周年を迎えると共に、新たな中期経営計画「Deepen & Grow」（深化と成長）を掲げ、次なるステージへ向けて新年度をスタートいたしました。かつてない混沌とした世界経済の下、私たちは更なる成長を目指し、これまで培ってきた技術のブラッシュアップを通じてレベルアップを図り、新たな事業領域を切り開き、付加価値の高い独自製品を創出して事業基盤の強化・拡大を進めてまいります。

今回は改めて各事業部にスポットを当て、既存製品や新たな取り組みについてご紹介いたします。

きっと皆様の近くで活躍しているJSPの発泡プラスチック。これからも世界に広く、暮しに深く、グループ一丸となって事業の拡大・発展を目指してまいります。



生活産業資材事業部

事業部長
若林 功一

食品包材部門

皆様の身近に有るスーパーの食品売り場で見かける食品包装用トレー、カップ麺の容器、納豆の容器等の素材であるPSP（ポリスチレンペーパー）を提供しています。様々な形に加工され、皆様のお役に立っています。

ポリスチレンペーパー(食品トレー)

ディスプレイ資材部門

量販店等の店内で使用されているポスターの台紙用として『ミラボード』を提供しています。また、お弁当容器等に使用される折箱の素材も提供しています。

ミラボード(ディスプレイ資材)

産業資材部門

家電製品等を優しく包む発泡ポリエチレンシートの『ミラマット』、空気をシートに閉じ込めた粒々感のある『キャプロン』を提供しています。最近では永久帯電防止効果を付加したタイプの『ミラマットエース』が、静電気を嫌う製品の保護・緩衝材として注目されています。同じく『ミラシャイン』『Pシャイン』『Pボード』も、埃、静電気を嫌う製品の搬送用トレー、BOXの素材として活躍しています。

ミラマットエース（永久帯電防止機能付き産業用包装材）

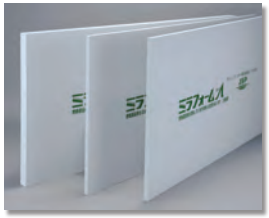
常に新しい技術に挑戦し、より皆様の身近でお役に立てる素材・製品の開発を行い、今後も地球に優しい製品の供給を目指してまいります。

建　築　土　木　資　材　事　業　部

事業部長
小野 秀夫

建築資材部門

『ミラフォーム』（断熱材）を主にRC造（鉄筋コンクリート）建築物（ビル・マンション等）向けにゼネコンなどに販売しています。他にミラフォームの特性を活かした様々な工法とともにミラフォームの複合品を上市してきました。また、阪神・淡路大震災後、建築物の構造規定の改正に伴い、建築物の耐震構造を維持する目的として、耐震用の『Jースリット』を開発し、現在一つの柱となっています。



ミラフォームラムダ(高性能断熱材)

住宅資材部門

主に木造の戸建住宅向けにハウスメーカーやビルダー、そして地場工務店に『ミラフォーム』を販売しています。また、当社独自の製造方法によるスキンボードタイプやミラフォームを断裁加工した『ミラネクスト』等も好評を得ています。化学畳の芯材としての使用や高齢化社会を迎え、バリアフリー薄畳の芯材として使用されています。

現在では、外張断熱工法などの提案を通じ、地球環境に貢献する高性能な省エネ住宅の需要にお応えしています。

ミラフォーム外張断熱工法

土木資材部門

『スチロダイアブロック』（発泡性ポリスチレンビーズ成形品）を主体とした軽量盛土材や排水資材、凍上防止材、橋梁軽量材などを公共物件を主に建設会社に販売しています。また、鉄道のホーム工事の嵩上げ材としても好評を得ています。スチロダイアブロック等に無機質の軽量モルタルを直接複合積層した『ウォールブロック』を開発し、販路拡大しています。大型機材が不要な為、周辺環境にも優しい工法です。

スチロダイアブロック(EPS軽量盛土工法)

高 機 能 材 事 業 部

事業部長
倉成 博己

自動車資材部門・機能材部門

ピーブロック（自動車バンパーコア材）

ピーブロック（液晶ガラス輸送箱）

当社が世界で初めて発明した『ピーブロック』（発泡ポリエチレンビーズ型内発泡体）、『ミラブロック』、『エルブロック』（共に発泡ポリエチレンビーズ型内発泡体）と、その原料となる粒状の発泡ビーズを扱っております。

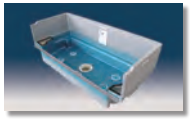
発泡体（ビーズ成形品）をつくる要領は、原料となる粒状の発泡ビーズを金型に入れ、熱と蒸気で膨らませて金型の形状に固めて造るので「たい焼き」をイメージしていただくと分かり易いかと思います。

ビーズ成形品は、軽量性・柔軟性・耐久性などの特徴を活かし、自動車のバンパーコア材や精密機器・液晶ガラス輸送箱などに使用されております。中でもピーブロックは、国内のみならず海外での需要に応えるべくアメリカ、ヨーロッパ、台湾、韓国、シンガポール、メキシコ、中国へ事業展開を行なっており、2011年にはブラジルへ進出しました。さらに、当2012年完成予定でブラジル、中国の増強を行っており、着実に事業拡大を続けております。

高機能材事業部を取り巻く国内環境は、歴史的円高によりIT機器メーカーの海外移転が加速するなど厳しい状況ですが、海外での需要は引続き堅調であり、世界の舞台で活躍できる新製品や新用途の開発をより一層進めてまいります。

スーパーフォーム（自動車エアコン用ダクト）

特販部門



ピーブロック（浴槽保温材）

樹脂に空気を吹き込んで金型に密着させて成形する技術のブロー成形と型内発泡技術を融合したハイブリッド成形品の『スーパーフォーム』、『スーパーブロー』などを取り扱っております。スーパーフォームは外皮となる樹脂を発泡させながらブロー成形したもの、スーパーブローは、ビーズ成形品の表面を樹脂で覆ったものをイメージしていただくと分かり易いかと思います。当社はこのスーパーフォームとスーパーブローを1工程で製造する技術を独自開発いたしました。

スーパーフォームは断熱性・静音性を活かして自動車エアコン用ダクトに、またスーパーブローは断熱性・堅牢性を活かし、ユニットバスの天井材として、それぞれ顧客より高い評価を得ております。最近ではさらに進化した技術を用いて用途が拡大しています。

スーパーブロー断面イメージ

E P S 事 業 部

EPS事業部は、農業水産関連の容器や家電製品の緩衝材などの用途で幅広く使用されている、「発泡スチロール成形品」の原料となる『発泡性ポリスチレンビーズ（Expandable Polystyrene：略称EPS）』を製造・販売している事業部です。

50年前の1962年にドイツのBASF社からEPSの製造技術を導入し、1963年に現在の四日市第一工場で生産を開始しました。その後1999年にシェル社から、2008年に日立化成工業社からそれぞれ、技術ノウハウも含めたEPS事業を譲り受け、技術の融合・活用により、発泡スチロールの使用範囲を拡大する各種グレードを取り揃え、四日市・鹿島の2工場体制で生産・販売を行っています。

EPSの中には発泡剤が含まれているため水蒸気で加熱すると数十倍に発泡させることができ、この発泡体を金型に入れて作る発泡スチロール成形品は、95%以上が空気であることから断熱性と緩衝性に優れた性能があり、更に軽くて、加工しやすいことから、日本では水産物を入れる魚箱の用途を中心に、家電製品等の各種緩衝材や、野菜・果物の保冷箱、土木・建材の用途など、広範囲に利用されています。

EPSの需要は、水産・農業、家電包材分野が依然メインですが、ここ数年来の“省エネ”の観点から、建材用断熱材、給湯器用保温材、自動車向け軽量化材、エアコン構造部材、各種搬送箱などの用途も着実に伸びてきています。日本国内でEPSの従来分野の需要が様々な要因で減少傾向にある中、『クリアポール』（発泡性PMMA系ビーズ／鋳造分野）、『エレンポールNEO』（発泡性ポリエチレン・ポリスチレン複合ビーズ／輸送箱、自動車部材）、『ヒートポールGR』（耐熱・耐油性ビーズ／自動車部材、給湯器用断熱材）などの新たな機能性付与グレードも拡充し、用途開拓を進めています。

更に、建材用断熱材、土木資材用途については、震災復興に伴う需要の取り込みを行い収益の安定化を目指します。

事業部長
鈴木 高徳

発泡性ポリスチレンビーズ

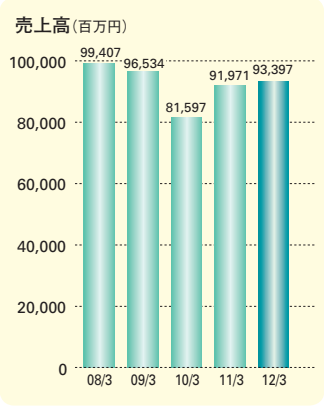
ヒートポールGR（給湯器用断熱材）

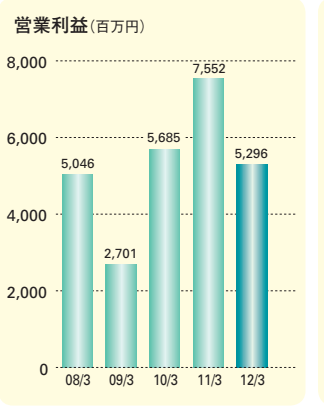
スチロダイア（建材用断熱材）

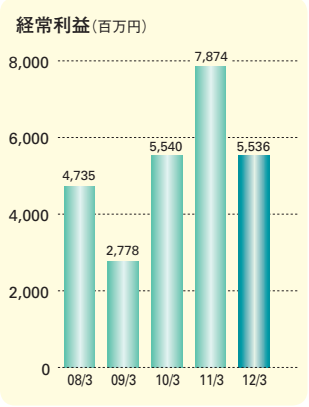
連結財務ハイライト

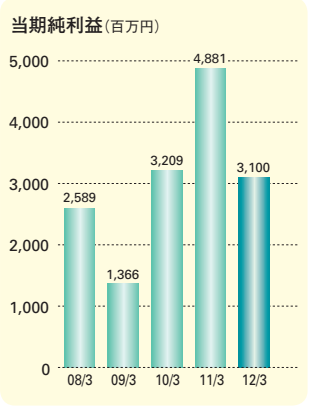
Consolidated Financial Highlights

（単位：百万円）	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3	2012/3
売上高	99,407	96,534	81,597	91,971	93,397
営業利益	5,046	2,701	5,685	7,552	5,296
経常利益	4,735	2,778	5,540	7,874	5,536
当期純利益	2,589	1,366	3,209	4,881	3,100
純資産	48,057	42,001	45,912	46,481	47,362
総資産	94,993	84,316	86,197	89,152	89,072
（単位：%）					
売上高営業利益率	5.1	2.8	7.0	8.2	5.7
売上高経常利益率	4.8	2.9	6.8	8.6	5.9
売上高当期純利益率	2.6	1.4	3.9	5.3	3.3
（単位：円）					
1株当たり当期純利益	82.74	43.74	103.35	161.25	103.98
1株当たり純資産	1,425.83	1,278.38	1,391.92	1,470.44	1,499.89
（単位：百万円）					
設備投資	5,743	4,371	3,203	3,368	6,006
減価償却費	4,950	5,069	4,688	4,582	4,607





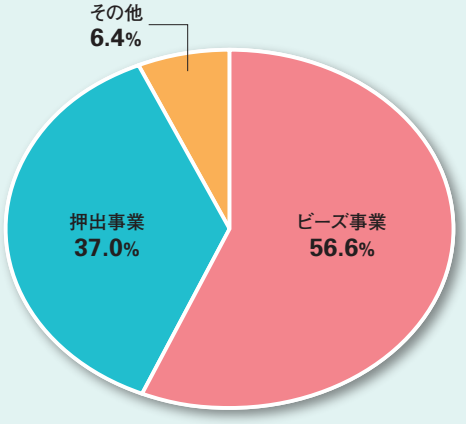




連結セグメント情報

Consolidated Segment Information

事業別売上高構成比



押 出 事 業

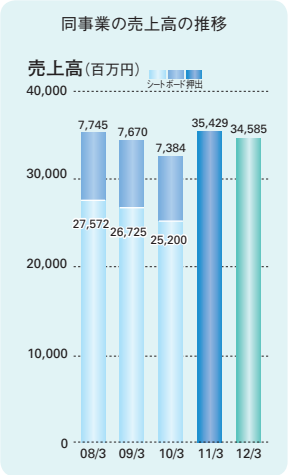
押出事業は、当社グループの売上高の37.0%を占めています。

産業用包材の発泡ポリエチレンシート「ミラマット」、発泡ポリプロピレンシート「Pボード」は、主に液晶テレビ基盤の輸送やデジタル家電輸送用に用いられておりますが、震災による家電市場の縮小や円高による輸出関連企業からの需要の伸び悩みの影響を受け、売上は減少しました。食品用包材の発泡ポリスチレンシート「スチレンペーパー」は、即席麺や弁当容器として広く用いられていますが、震災の影響等により売上は伸び悩みました。広告用ディスプレー材や折材の発泡ポリスチレンシート「ミラボード」は、震災後しばらく続いた企業の広告宣伝活動やイベントの自粛により苦戦したものの、その後の需要回復もあり、売上は前年同期並みとなりました。発泡ポリスチレン押出ボードの住宅用断熱材「ミラフォーム」は、震災の影響による需要減があったものの、復興に伴い徐々に需要は回復し、住宅エコポイント制度の再開も追い風となり、売上は前年同期並みを確保しました。トラックの積載品を保護するための緩衝材や家電・自動車用部品の通い函に用いられる発泡ポリエチレン押出ボード「ミラプランク」は、物流量の低下による厳しい需要環境で推移し、売上は減少しました。

これらの結果、押出事業の売上高は34,585百万円（前年同期比2.4%減）、営業利益は2,557百万円（同17.3%減）となりました。

ミラボード（広告用ディスプレー材）

ミラフォーム
（住宅用断熱材／外張断熱工法）



※2010年4月より、これまでのシート事業およびボード事業を統合し、押出事業としております。

ビーズ事業

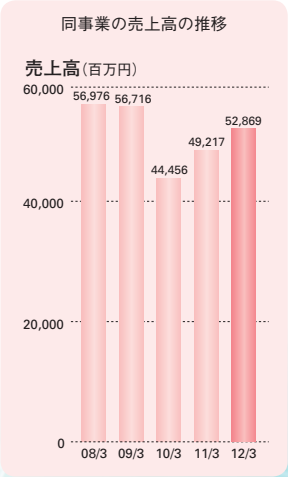
ビーズ事業は、当社グループの売上高の56.6%を占めています。

発泡ポリプロピレン「ピーブロック」は、主にバンパーコア材・内装材・シートコア材等の自動車部品のほか、IT製品輸送用通い函・家電製品用緩衝材・競技用グラウンド基礎緩衝材等に用いられており、世界各地で製造販売を行っております。日本国内においては、震災の影響などにより厳しい需給環境が続き、デジタル家電向けの輸送用通い函や緩衝材の売上は減少しました。自動車関連用途においても生産台数の低下により一時需要が落ち込んだものの、その後の需要の回復を受け、売上は前年同期並みとなりました。一方、欧米においては、自動車関連の需要が堅調に推移したことなどにより、売上は増加しました。また、アジア地域においても、家電製品・自動車関連の需要とも堅調に推移したことにより、売上は増加しました。発泡性ポリスチレン「スチロダイア」は、主用途である魚箱需要が被災地域を中心として依然本格的な回復には至らず、売上は減少しました。また、当連結会計年度よりビーズ事業に移管しましたユニットバス天井材に使用されているハイブリッド成形品「スーパーブロー」は、断熱基準強化による需要増加により、売上は増加しました。自動車エアコン用ダクトに使用されている「スーパーフォーム」は、搭載車種の生産台数減少により、売上は減少しました。

これらの結果、ビーズ事業の売上高は52,869百万円（前年同期比5.3%増）、営業利益は3,212百万円（同29.5%減）となりました。

ピーブロック
（競技用グラウンド基礎緩衝材）

スーパーブロー（浴室天井材）

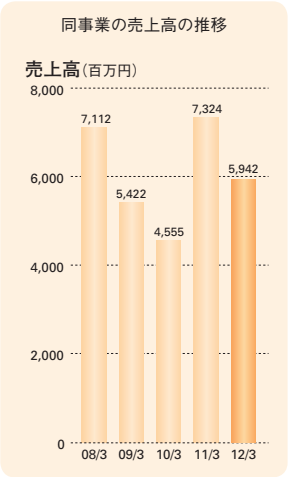


その他

その他の事業は、当社グループの売上高の6.4%を占めています。

一般包材は、震災による需要低迷や急速な円高による輸出関連企業からの需要の伸び悩みにより、売上は減少しました。なお、前連結会計年度まで新事業分野として（その他）に区分しておりました「スーパーブロー」並びに「スーパーフォーム」につきましては、当連結会計年度よりビーズ事業として製造・販売を行っております。

これらの結果、その他の売上高は5,942百万円（前年同期比6.0%減）、営業損失は214百万円（前年同期は営業利益7百万円）となりました。



※2011年4月より、これまで「その他」に区分しておりましたスーパーブロー並びにスーパーフォームは、ビーズ事業に移管しております。

要約連結財務諸表

Summary of Consolidated Finalcial Statements

要約連結貸借対照表

（単位：百万円）

（資産の部）	当　期 2012年3月31日現在	前　期 2011年3月31日現在	前期比増減額
流動資産	50,073	51,091	△1,018
現金及び預金	9,362	13,474	△4,112
受取手形及び売掛金	29,055	26,709	2,345
有価証券	0	0	△0
商品及び製品	5,416	4,862	553
仕掛品	680	598	82
原材料及び貯蔵品	3,398	2,868	529
その他	2,442	2,792	△349
貸倒引当金	△282	△214	△67
固定資産	38,999	38,060	938
有形固定資産	35,150	34,194	956
建物及び構築物	11,158	11,489	△331
機械装置及び運搬具	8,852	9,265	△413
土地	13,054	11,995	1,059
その他	2,084	1,443	641
無形固定資産	967	986	△18
投資その他の資産	2,881	2,880	1
投資有価証券	1,873	1,673	199
その他	1,027	1,246	△219
貸倒引当金	△19	△ 40	21
❶ 資産合計	89,072	89,152	△79

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❶資産合計
総資産は89,072百万円で、前年同期比79百万円減少しました。このうち流動資産は現金及び預金、受取手形及び売掛金の増減等で1,018百万円減少、固定資産は938百万円増加しました。

（負債の部）	当　期 2012年3月31日現在	前　期 2011年3月31日現在	前期比増減額
流動負債	30,068	31,908	△1,840
支払手形及び買掛金	11,868	10,210	1,657
短期借入金	6,122	9,200	△3,077
1年内返済予定の長期借入金	4,582	4,533	48
その他	7,495	7,964	△469
固定負債	11,641	10,761	879
長期借入金	9,753	9,307	446
退職給付引当金	714	508	205
その他	1,173	945	227
❷ 負債合計	41,709	42,670	△960
（純資産の部）			
株主資本	52,843	50,638	2,205
資本金	10,128	10,128	—
資本剰余金	13,405	13,405	—
利益剰余金	30,681	28,475	2,205
自己株式	△1,371	△1,371	△0
その他の包括利益累計額	△8,122	△6,794	△1,327
その他有価証券評価差額金	148	11	136
為替換算調整勘定	△8,270	△6,805	△1,464
少数株主持分	2,641	2,638	3
純資産合計	47,362	46,481	881
負債及び純資産合計	89,072	89,152	△79

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❷負債合計
負債は41,709百万円で、前年同期比960百万円減少しました。このうち流動負債は短期借入金の減少等により1,840百万円減少し、固定負債は長期借入金の増加等で879百万円増加しました。

要約連結損益計算書

（単位：百万円）

	当　期 2011年4月1日から 2012年3月31日まで	前　期 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	前期比 増減額
売上高	93,397	91,971	1,426
売上原価	67,516	64,320	3,195
売上総利益	25,881	27,651	△1,769
販売費及び一般管理費	20,585	20,098	486
営業利益	5,296	7,552	△2,256
営業外収益	733	762	△28
営業外費用	494	440	53
経常利益	5,536	7,874	△2,338
特別利益	323	369	△45
特別損失	682	773	△90
税金等調整前当期純利益	5,176	7,470	△2,293
法人税等	1,758	2,211	△453
少数株主損益調整前当期純利益	3,418	5,258	△1,839
少数株主利益	318	376	△58
当期純利益	3,100	4,881	△1,781

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❹営業利益、経常利益、当期純利益

世界経済の財政問題や情勢不安、東日本大震災後とその後の電力供給問題や円高の長期化など様々な深刻な影響を受ける中、生産体制の確保や利益の確保等に努めましたが、営業利益は原材料及び燃料価格の上昇によるコスト高などもあり5,296百万円（前年同期比29.9％減）、経常利益は5,536百万円（同29.7％減）、当期純利益は3,100百万円（同36.5％減）となりました。なお、東日本大震災の影響により特別損失223百万円を当連結会計年度に計上しています。

連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	当　期 2011年4月1日から 2012年3月31日まで	前　期 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	前期比 増減額
少数株主損益調整前当期純利益	3,418	5,258	△1,839
その他の包括利益			
その他有価証券評価差額金	136	△155	292
為替換算調整勘定	△1,630	△2,392	761
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0	0
その他の包括利益合計	△1,494	△2,548	1,054
包括利益	1,924	2,709	△785
（内訳）			
親会社株主に係る包括利益	1,772	2,601	△829
少数株主に係る包括利益	151	108	43

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

要約連結キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

	当　期 2011年4月1日から 2012年3月31日まで	前　期 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	前期比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,532	7,840	△2,308
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,138	△5,197	△941
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,602	△475	△3,126
現金及び現金同等物期末残高	5,976	10,487	△4,511

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❸売上高

国内外において独自技術に基づいた付加価値の高い発泡樹脂製品の販売に注力しました結果、前年同期比1.6％増の93,397百万円となりました。

連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

当連結会計年度	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
2012年4月1日残高	10,128	13,405	28,475	△1,371	50,638	11	△6,805	△6,794	2,638	46,481
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△894		△894			—		△894
当期純利益			3,100		3,100			—		3,100
自己株式の取得				△0	△0			—		△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）					—	136	△1,464	△1,327	3	△1,324
連結会計年度中の変動額合計	—	—	2,205	△0	2,205	136	△1,464	△1,327	3	881
2012年3月31日残高	10,128	13,405	30,681	△1,371	52,843	148	△8,270	△8,122	2,641	47,362

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

JSPカレンダー

JSP Calendar

2011

12 December

「SMBC日興証券㈱主催　個人投資家向け説明会」に参加

12月9日、SMBC日興証券㈱が主催し、同社宇都宮支店で開催の「個人投資家向け説明会」に参加いたしました。

2012

1 January

「大和インベスター・リレーションズ㈱主催　個人投資家向け説明会」に参加

1月28日、大和インベスター・リレーションズ㈱が主催し、福岡で開催の「個人投資家向け説明会」に参加いたしました。

「平成24年3月期第3四半期決算短信」を発表

1月31日、東京証券取引所に平成24年3月期　第3四半期決算短信を報告し、対外発表いたしました。

（単位：百万円）	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
平成24年3月期第3四半期	**70,774**	**4,530**	**4,642**	**3,119**
平成23年3月期第3四半期	70,196	6,251	6,278	4,538
参考：平成23年3月期	91,971	7,552	7,874	4,881

2 February

「三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱主催　個人投資家向け説明会」に参加

2月3日、三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱が主催し、同社大阪支店で開催の「個人投資家向け説明会」に参加いたしました。

「SMBC日興証券㈱主催　個人投資家向け説明会」に参加

2月22日、SMBC日興証券㈱が主催し、同社四日市支店で開催の「個人投資家向け説明会」に参加いたしました。

3 March

QCサークル活動全国大会開催

3月10日、当社恒例のQCサークル活動発表会全国大会を東京国際フォーラムにて開催いたしました。全国8工場54サークルより選抜された10サークルに中国子会社のJSP Plastics東莞工場からの特別参加を加え、日頃取組んできたテーマとその成果を発表いたしました。今大会では、昨年に続き関西工場の王将サークルが「安全な職場づくり!!～ダイス交換作業の安全性向上～」のテーマで金賞を受賞いたしました。

3月31日　平成24年3月期　決算日

資本金の変更（平成24年3月31日現在）

資本金	**平成24年3月31日現在**	**10,128百万円＜増加なし＞**
	平成23年9月30日現在（前回報告）	10,128百万円
発行済株式総数		31,413,473株

2012

4 April

JSP取引先持株会理事会開催

4月23日、JSP取引先持株会が開催され、平成23年度事業報告書の案件が承認されました。

決算発表

4月27日、東京証券取引所に平成24年3月期決算の報告を行い、対外発表いたしました。

5 May

決算説明会開催

5月24日、如水会館において、アナリスト・ファンドマネージャーに対し、平成24年3月期決算の説明会を開催いたしました。

6 June

定時株主総会開催

6月28日、定時株主総会を開催いたしました。なお当定時株主総会において取締役、監査役の選任・決定をいたしました。

職　　位	氏　　名	委嘱業務
代表取締役会長	井　上　六　郎	
代表取締役社長	塚　本　耕　三	
取締役　副社長執行役員	寺　西　耕　一	社長補佐、第一事業本部長
取締役　専務執行役員（昇任）	臼　井　　宏	第二事業本部長
取締役　常務執行役員（昇任）	山　本　　均	経理財務本部長、経営企画本部管掌
取締役　執行役員	小　野　秀　夫	第一事業本部建築土木資材事業部長
取締役　執行役員	斉　藤　吉　成	総務人事本部長
取締役（新任）　執行役員	及　川　泰　男	研究開発本部長、新事業開発室長、知的財産室管掌
取締役（新任）　執行役員	若　林　功　一	第一事業本部生活産業資材事業部長
取締役（新任）　執行役員	近　藤　　正	経営企画本部長兼経営企画部長
監査役（新任）	松　笠　　隆	（常勤）
監査役	橋　本　雅　司	（常勤・社外）
監査役	松　本　勝　博	（非常勤）
監査役	酒　井　幸　男	（非常勤・社外）

今後の予定

7月下旬　　平成25年3月期　第1四半期決算　発表予定
10月下旬　　平成25年3月期　第2四半期決算　発表予定

お知らせ

創立50周年を迎えました

1月24日、弊社は創立50周年を迎えました。これも偏に1962年の創立以来いただきました皆様の暖かいご支援、ご愛顧の賜であり、衷心より御礼申し上げます。これを機に社員一同、心新たに社業発展のため、尚一層の精進を重ねてまいります。今後ともご高援、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

創業から半世紀への感謝と、独自の発泡技術を基盤にワールドワイドサプライヤーとして創造的行動力による社会貢献を使命に、地球とともに次の世代へと歩み続けてまいります。

50 YEARS

九州工場倉庫・事務所棟竣工

施工の目的

老朽化が進んだミラネットのプレハブ倉庫4棟を解体し、同場所に倉庫兼作業棟を建設し、1階をミラフォーム製品倉庫、2階をミラマット断裁加工場としました。

建屋の一部を事務所及び会議室として使用することにより、ミラマット二次加工体制の強化、ミラフォーム倉庫面積の確保、ミラフォーム横持ち運賃の合理化、並びに事務所の必要スペース確保が図れます。

建設工事の概要

建設期間

①基本設計着手	2011年1月5日
②執行役員会決裁	2011年4月11日
③実施設計着手	2011年5月1日
④プレハブ解体	2011年8月1日
⑤建設着手	2011年10月1日
⑥工事完成	2012年1月30日

建設面積

(m²)

①1階事務所	218
②1階倉庫	1,224
③2階会議室等	218
④3階加工室	1,442
⑤その他（EV、下屋等）	457
建築面積（①＋②＋⑤）	1,899
延べ床面積	3,715

事務所スペース

加工場①

加工場②

倉庫兼作業棟全景

株主優待制度／配当実績

Shareholder Benefit/Dividend Record

株主優待制度

〈デザイン見本〉

■対象株主様

毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または登録された1単元（100株）以上を保有されている株主様

■優待の内容

一律3,000円相当の、社会貢献寄附金付オリジナルクオカード（株主様は3,000円全額ご使用いただけます）

■贈呈の時期

毎年の株主総会終了後に発送予定

■社会貢献寄附金「緑の募金」について

1995年に制定された「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき、㈳国土緑化推進機構及び各都道府県緑化推進委員会が行っている募金です。集められた寄附金は、森林整備・緑化推進事業・森林に関わる人づくりなどに活用されています。

配　当　実　績

■株主還元方針

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な政策として位置付けております。利益の配分につきましては、安定した配当を重視するとともに、各事業年度の連結業績と将来の事業展開に必要な内部留保の充実などを勘案しながら、総合的に決定する方針としております。

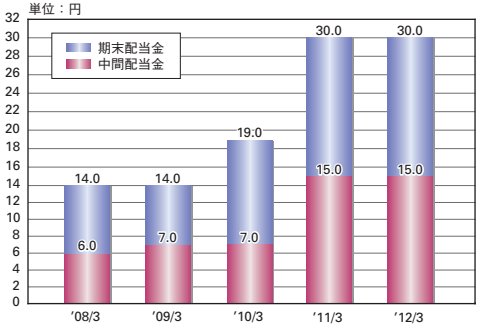
内部留保資金については、財務体質の強化とともに、今後の新製品、新技術への研究開発投資や新規事業展開のための設備投資に充当してまいります。

なお、当社は、会社法第459条第1項に基づく剰余金の配当を取締役会決議により行なうことができる旨定款に定めており、中間配当及び期末配当の年2回の取締役会決議による配当を基本的な方針としております。

■当期配当金

当2012年3月期の1株当たりの配当金は30円、支払い済みの中間配当金を差し引いた期末配当金は1株当たり15円とさせていただきます。

■配当実績



会社情報（2012年3月31日現在）

Corporate Data

JSP

会社概要

商号	株式会社JSP
所在地	本社　東京都千代田区丸の内三丁目4番2号
事業内容	発泡プラスチック、 その他合成樹脂製品の製造販売および輸出、 土木・建築工事の設計・請負および管理
設立	1962年（昭和37年）1月
資本金	10,128百万円
決算期	3月
従業員数	681名　出向者除く 連結2,420名（国内1,241名・海外1,179名）
事業所他	5営業所、1出張所、10工場、2研究所
主要関係会社	国内11社、海外26社

大株主

株主名	株数（千株）
三菱瓦斯化学株式会社	13,212
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,190
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,565
JSP取引先持株会	1,081
ジェーピー　モルガン　チェース　バンク　385166	575
JSP従業員持株会	485
ビービーエイチルクス フイデリテイ フアンズ ジャパン アドバンテージ	424
資産管理サービス信託銀行株式会社	311
日本生命保険相互会社	301
野村信託銀行株式会社（投信口）	271

※当社は自己株式1,597千株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.co-jsp.co.jp/ir/index.html （ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。）

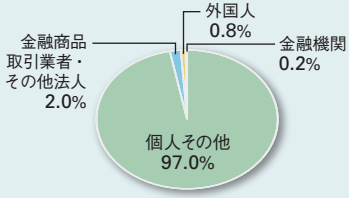
（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

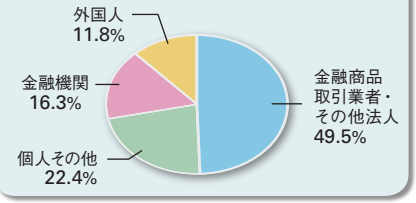
株式の状況

発行可能株式総数	46,000,000株
発行済株式の総数	31,413,473株
株主数	16,826名

● 株主数別分布状況 ●



● 株式数別分布状況 ●



「サン・ジェルマン大通り」のカフェ

フランス　パリ

撮影・文
清 水　準 一（写真家）

パリ最古の時計台。バスの2階より撮影

1993年の冬号からJSPニュースの表紙を担当して以来20年の間に、この種のスナップを載せて頂くのは、1998年夏の31号以来14年振りのことで、従来の解題とは一寸変えてみました。

31号のタイトルは「ホーフブロイハウス前広場」で、場所はミュンヒェン、テーマはビールを楽しむ人達でした。今回はパリのカフェですから共に街の名物というところです。

セーヌ川左岸の街サン・ジェルマン・デ・プレは、短期間でパリを観光するには便利な拠点です。泊まったホテルはメトロのサン・ジェルマン・デ・プレ駅から徒歩3分「アングルテール・サン・ジェルマン・デ・プレ」でした。仏語で「英国」を意味する「アングルテール」の命名はかつての在仏英国大使館だった建物を1783年に改築開業したからだそうです。フロアーがやや傾いていたのを除けばアンティークな雰囲気を堪能できました。ホテルの周辺には手ごろなレストランも多く、選択に悩まされましたが、運よく予算の範囲の店を見つけて、ディナーも楽しめました。また、この辺りは老舗の洋品雑貨のお店も多数あり、ウィンドー・ショッピングも楽しめます。ただ、お店の営業時間が短いので、本格的な買い物をなさるなら、丸一日をあてないと無理のようです。私も観光のついでにと思っていましたら、本当にウィンドー・ショッピングになり、空港で月並みの慌ただしい買い物になってしまいました。

サン・ジェルマン・デ・プレは第二次世界大戦後、パリの知的生活の代名詞となり、哲学者・作家・俳優・音楽家・画家などが地下のナイトスポットにたむろし、熱い議論を繰り返していたそうです。伝えられるところでは数あるカフェの中でも、サルトル※1やボーヴォワール※2のお気に入りは「カフェ・ド・フロール」で、アール・デコ調の優美な店内は印象的だそうです。また「ラ・ロトンド」の室内は深紅に統一され、20世紀初頭にはフジタ※3やモディリアーニ※4などの集うカフェとして有名でした。ここは映画「モンパルナスの灯」※5にも登場しています。さらに「レ・ドゥ・マゴ」は抜群の老舗で、文豪バルザック※6やヘミングウェイなどが足繁く通い、戦後はサルトルが書斎代わりにしていました。入り口付近の2体（deux＝2つ）の中国人形（magots＝人形）が店名の由来だそうです。

たった2日の日程では多くを望めず残念でしたが、長年の希望だったザビエル縁のサン・ジェルマン・デ・プレ教会（パリで最も古い教会で、11世紀建造、一部にはまだロマネスク様式の壁などが現存していて、デカルト※7の墓石など興味深い史跡もあり、この地域のシンボル的存在）を撮影できたので、かなり満足しています。その日の行程は2階建てバスのパリ半日観光とオルセー美術館の駆け足観賞でしたので、もう一度訪れてカフェの名店巡りをしたいと思います。

※1　サルトル
ジャン＝ポール・サルトル（1905年　パリ生まれ）。フランスの哲学者、小説家、劇作家、評論家。

※2　ボーヴォワール
シモーヌ・ド・ボーヴォワール（1908年　パリ生まれ）。フランスの女性作家、哲学者。

※3　フジタ
レオナール・フジタ（日本名：藤田嗣治　1886年　東京生まれ）。フランスにおいて最も有名な日本人画家。

※4　モディリアーニ
アメデオ・モディリアーニ（1884年　イタリア生まれ）。イタリアの画家、彫刻家。

※5　モンパルナスの灯
1910年代のフランス　モンパルナスを舞台にした画家モディリアーニの伝記小説。（1958年　ジャック・ベッケル監督）

※6　バルザック
オノレ・ド・バルザック（1799年　フランス生まれ）。19世紀フランスを代表する小説家。

※7　デカルト
ルネ・デカルト（1596年　フランス生まれ）。哲学者、自然哲学者（自然学者）、数学者。

Network

本社・事業所一覧

本　社			☎
	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-4-2（新日石ビル）	03-6212-6300
営業所			
札幌	〒060-0003	札幌市中央区北3条西1-1（サンメモリアビル）	011-231-2681
仙台	〒980-0811	仙台市青葉区一番町2-4-1（仙台興和ビル）	022-262-3271
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦3-4-6（桜通大津第一生命ビル）	052-962-3225
大阪	〒541-0053	大阪市中央区本町1-6-16（野村不動産堺筋本町ビル）	06-6264-7900
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-17（五幸ビル）	092-411-6854
出張所			
広島	〒732-0052	広島市東区光町1-12-20（もみじ広島光町ビル）	082-568-0566
工　場			
北海道	〒067-0051	北海道江別市工栄町23-4	011-384-1621
鹿沼第一	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼第二	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町5	0289-76-3271
鹿沼第三	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-2	0289-76-5905
鹿沼第四	〒322-0026	栃木県鹿沼市茂呂2626-4	0289-60-3305
鹿沼物流センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	0289-76-2121
鹿島	〒314-0103	茨城県神栖市東深芝16-3	0299-93-4111
四日市第一	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1220
四日市第二	〒510-0955	三重県四日市市北小松町扇廣1600	059-328-2563
関西	〒679-4304	兵庫県たつの市新宮町下笹515	0791-77-0213
九州	〒861-0111	熊本県熊本市北区植木町宮原553	096-274-7101
研究所			
鹿沼	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-3	0289-76-1600
四日市	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1245

海　外

北　米
- JSP International, LLC.（アメリカ）
- JSP International de Mexico, S.A. de C.V.（メキシコ）

南　米
- JSP Brasil Indústria De Plásticos Ltda.（ブラジル）

欧　州
- JSP International SARL（フランス）
- JSP International GmbH & Co.KG（ドイツ）
- JSP International s.r.o.（チェコ）
- JSP International o.o.o.（ロシア）

アジア
- JSP Foam Products, PTE. Ltd.（シンガポール）
- Taiwan JSP Chemical Co., Ltd.（台湾）
- KOSPA Corporation（韓国）
- JSP Plastics (Wuxi) Co., Ltd.（中国）
- JSP Plastics (Shanghai) Co., Ltd.（中国）
- Kunshan JSP Seihoku Packaging Material Co., Ltd.（中国）
- JSP Plastics (Dongguan) Co., Ltd.（中国）
- JSP Foam India Pvt. Ltd.（インド）

JSP

発行　**株式会社 JSP**

東京都千代田区丸の内三丁目4番2号新日石ビル

IR室　TEL.03-6212-6306　FAX.03-6212-6302

ホームページ　http://www.jsp.com

VEGETABLE OIL INK

R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています